

平成26年度全国学力・学習状況調査 結果分析・指導改善資料

子どもの 目線に立つ 2014

学力向上に向けた指導改善のために

- 調査・結果の概要
- 国語の調査結果から見える指導改善のポイント
- 算数・数学の調査結果から見える指導改善のポイント
- 質問紙調査結果から見える指導改善のポイント
- 指導しきる授業を行うために、全ての先生が、全ての授業で大切にしたい「3つの見届ける」



平成26年11月 岐阜県教育委員会

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

原則として以下の学年の全児童生徒を対象

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査の内容

- ・教科(国語、算数・数学)に関する調査 A(知識) B(活用)
- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

(4) 調査日

- ・平成26年4月22日(火)

(5) 岐阜県において調査を実施した学校・児童生徒数(公立学校)

【小学校調査】

学校数(実施率)	児童数
374校(100%)	約20,000人

【中学校調査】

学校数(実施率)	生徒数
189校(98.9%)	約20,000人

※児童生徒数は調査の内容により、参加した人数が異なるため、「約」としている。

※学年閉鎖のため後日実施した学校は、学校数に含まれていない。

※国・私立学校は、学校数に含まれていない。

2 岐阜県教育の現状

◆子どもの学力について

○ 平成26年度全国学力・学習状況調査 小6・中3対象 平均正答率

- ・小6では、国語・算数について、A(知識)とB(活用)のどちらも全国平均正答率を下回っている。
- ・中3では、国語・数学について、A(知識)とB(活用)のどちらも全国平均正答率を上回っている。

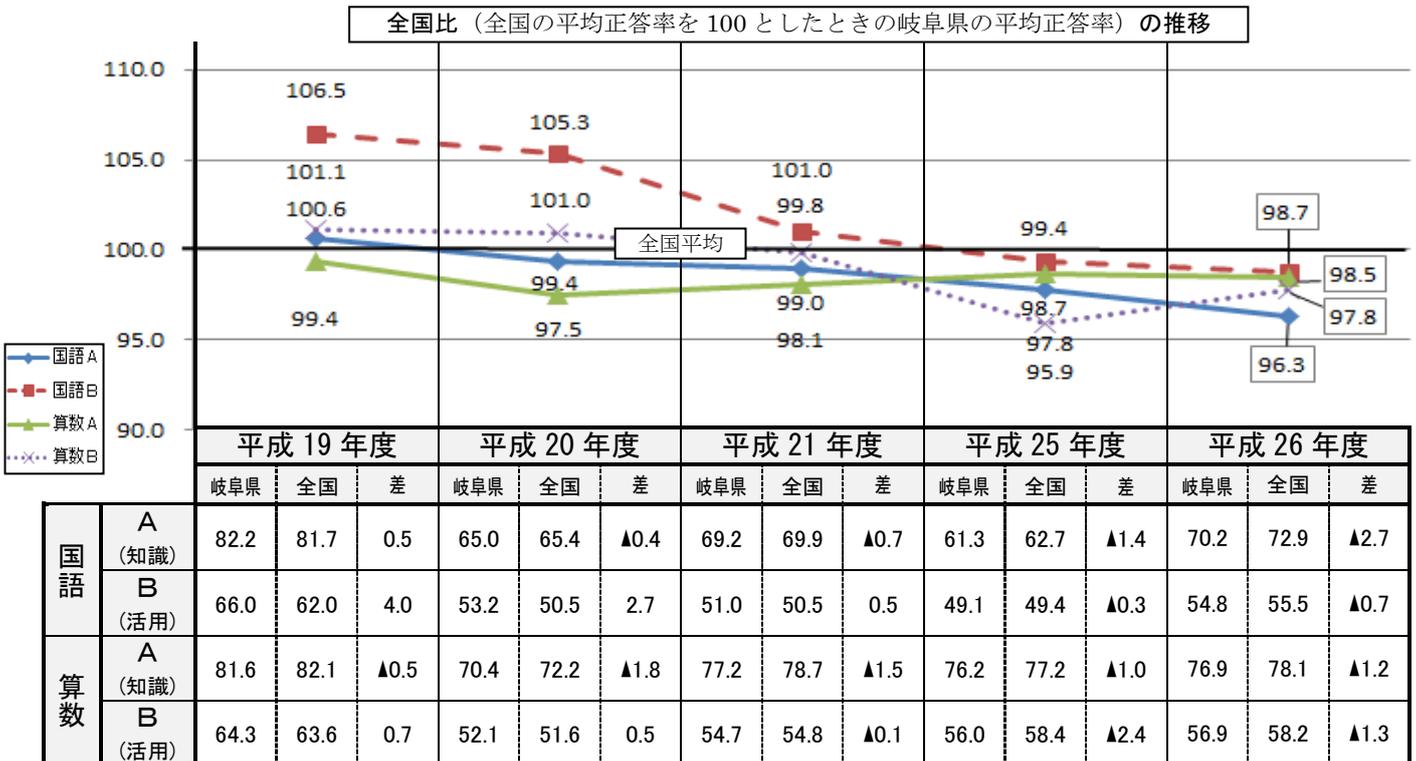
	小学校				中学校			
	岐阜県	全国	全国との差	全国比	岐阜県	全国	全国との差	全国比
国語A(知識)	70.2	72.9	▲2.7	96.3	79.8	79.4	0.4	100.5
国語B(活用)	54.8	55.5	▲0.7	98.7	52.0	51.0	1.0	102.0
算数A・数学A(知識)	76.9	78.1	▲1.2	98.5	69.8	67.4	2.4	103.6
算数B・数学B(活用)	56.9	58.2	▲1.3	97.8	61.3	59.8	1.5	102.5

※全国比…全国の平均正答率を100としたときの岐阜県の平均正答率を示す。□は全国より上回っている。

○ 平均正答率の推移

【小学校6年生の平均正答率】

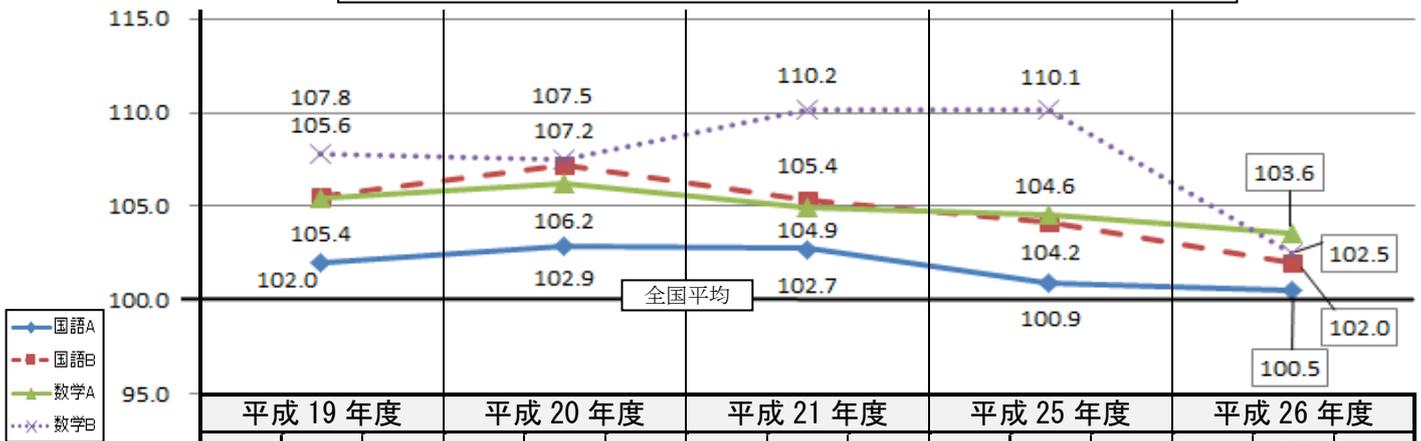
- ・小6の平均正答率は、国語・算数とも、平成25年度以降、全国平均を下回っている。
- ・平成26年度の平均正答率の全国比は、算数Bを除き、前年度より若干下がっている。



【中学校3年生の平均正答率】

- ・中3の平均正答率は、国語・数学とも、本調査実施当初より、全国平均を上回る数値で推移している。
- ・平成26年度の平均正答率の全国比は、国語・数学とも、前年度より下がっており、特に数学Bが大きく下がっている。

全国比（全国の平均正答率を100としたときの岐阜県の平均正答率）の推移



		平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成25年度			平成26年度		
		岐阜県	全国	差												
国語	A (知識)	83.2	81.6	1.6	75.7	73.6	2.1	79.1	77.0	2.1	77.1	76.4	0.7	79.8	79.4	0.4
	B (活用)	76.0	72.0	4.0	65.3	60.9	4.4	78.5	74.5	4.0	70.2	67.4	2.8	52.0	51.0	1.0
数学	A (知識)	75.8	71.9	3.9	67.0	63.1	3.9	65.8	62.7	3.1	66.6	63.7	2.9	69.8	67.4	2.4
	B (活用)	65.3	60.6	4.7	52.9	49.2	3.7	62.7	56.9	5.8	45.7	41.5	4.2	61.3	59.8	1.5

※平均正答率の推移を示すグラフについては、悉皆調査を実施した年度の数値を活用している（抽出調査を実施した平成22年度調査及び平成24年度調査の数値並びに東日本大震災の影響等により調査の実施が見送られた平成23年度の数値は含まれていない）。

○ 小6の平均正答率の全国比

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成25年度	平成26年度
国語A	100.6	99.4	99.0	97.8	96.3
国語B	106.5	105.3	101.0	99.4	98.7
算数A	99.4	97.5	98.1	98.7	98.5
算数B	101.1	101.0	99.8	95.9	97.8

○ 中3の平均正答率の全国比

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成25年度	平成26年度
国語A	102.0	102.9	102.7	100.9	100.5
国語B	105.6	107.2	105.4	104.2	102.0
数学A	105.4	106.2	104.9	104.6	103.6
数学B	107.8	107.5	110.2	110.1	102.5

◆子どもの学習習慣及び基本的な生活習慣について

- ・小学校では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」「平日、学校の授業時間以外に1時間以上の勉強をしている」「休日、1時間以上の勉強をしている」と回答した児童の割合が、全国より10ポイント程度上回っている。
- ・中学校では、「休日、1時間以上の勉強をしている」「家で学校の授業の予習（復習）をしている」と回答した生徒の割合が、全国より10ポイント程度上回っている。
- ・小学校・中学校ともに、「地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合が全国より15ポイント以上上回っている。

○ 子どもの学習習慣の状況 「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

質問項目	小学校			中学校		
	岐阜県	全国	全国との差	岐阜県	全国	全国との差
学校に行くのは楽しいと思う	84.8	86.6	▲ 1.8	80.1	82.4	▲ 2.3
家で、自分で計画を立てて勉強している	70.4	61.0	9.4	47.9	46.6	1.3
平日、学校の授業時間以外に1時間以上の勉強をしている	72.0	62.0	10.0	76.4	67.9	8.5
休日、1時間以上の勉強をしている	66.3	55.9	10.4	77.1	67.4	9.7
家で、学校の授業の予習をしている	40.7	43.2	▲ 2.5	44.5	34.2	10.3
家で、学校の授業の復習をしている	53.7	54.0	▲ 0.3	59.6	50.4	9.2
学習塾(家庭教師を含む)で勉強している	49.3	47.7	1.6	67.0	60.3	6.7

○ 子どもの基本的な生活習慣等の状況 「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

質問項目	小学校			中学校		
	岐阜県	全国	全国との差	岐阜県	全国	全国との差
毎日の起床時間がほぼ一定している	92.2	90.9	1.3	91.5	92.1	▲ 0.6
平日、1時間以上、テレビゲーム(携帯式含む)をしている	53.0	54.7	▲ 1.7	59.2	56.4	2.8
平日、1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている	12.3	15.1	▲ 2.8	43.9	47.7	▲ 3.8
地域の行事に参加している	84.5	68.0	16.5	61.4	43.5	17.9

○ 子どもの意識・自己肯定感等の状況 「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

質問項目	小学校			中学校		
	岐阜県	全国	全国との差	岐阜県	全国	全国との差
ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある	94.3	94.4	▲ 0.1	93.1	93.9	▲ 0.8
自分には、よいところがあると思う	76.5	76.1	0.4	66.3	67.1	▲ 0.8
将来の夢や目標を持っている	86.3	86.7	▲ 0.4	69.2	71.4	▲ 2.2
学校のきまりを守っている(小) 学校の規則を守っている(中)	93.2	90.5	2.7	93.5	93.0	0.5
友達との約束を守っている	98.2	97.3	0.9	97.6	97.1	0.5

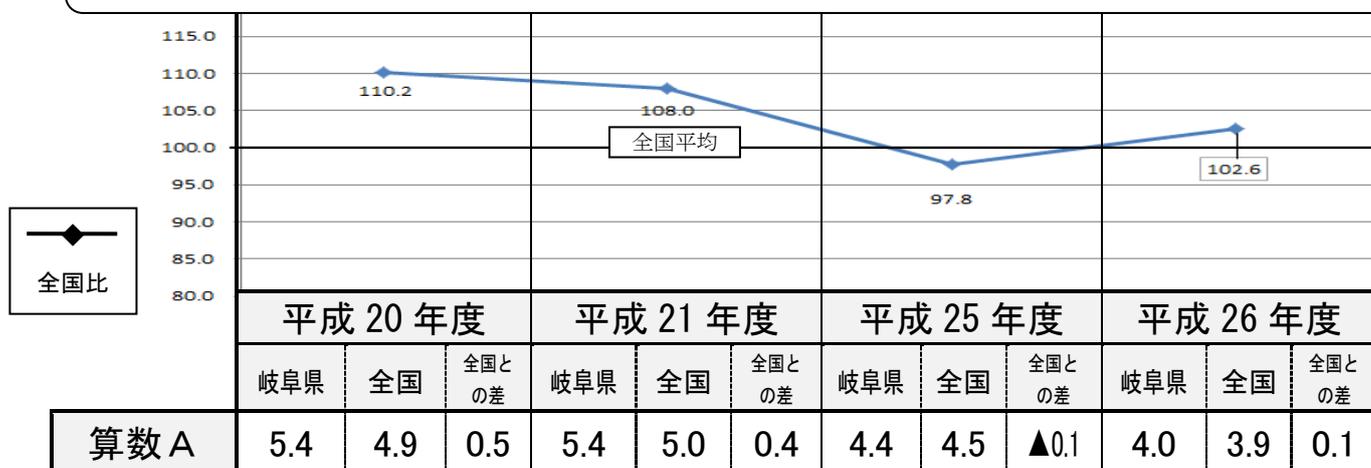
3 岐阜県教育委員会における施策の成果と課題

◆ 「基礎学力定着サポートプラン」の実施

本県では、特に算数において全国の平均正答数の半数を下回る児童の割合が、全国に比べて高いことを課題として認識し、平成22年度以降「基礎学力定着サポートプラン」を実施してきた。特に、「小学校算数における習熟度別少人数指導」や「県で作成した補充問題の提供」などに取り組んだ結果、全国の平均正答数の半数を下回る児童の割合が全国並みに減少している。

○ 全国の平均正答数の半数を下回る児童の割合 【小学校6年生・算数A】

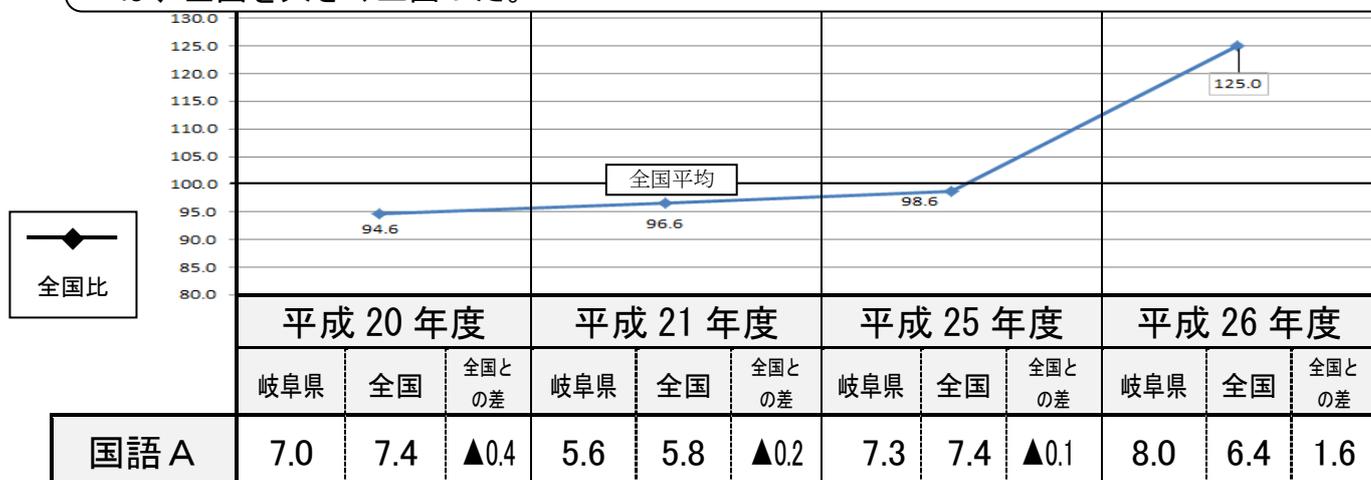
・小6の算数Aにおいて、全国の平均正答数の半数を下回る児童の割合は、平成25年度以降、全国並みで推移している。



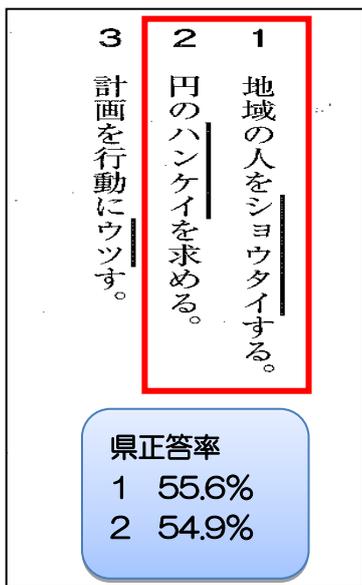
一方、特に小学校国語Aの問題において、漢字の読み書きや故事成語などの知識を問う問題の正答率が低いことから、基礎学力の定着が十分に図られていないことが明らかになった。

○ 全国の平均正答数の半数を下回る児童の割合 【小学校6年生・国語A】

・小6の国語Aにおいて、全国の平均正答数の半数を下回る児童の割合は、平成26年度は、全国を大きく上回った。



●全国学力・学習状況調査の分析結果と課題



◆文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすることについては、
一部に課題 例) A8 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ

■正答
「招」は小学校第5学年、「待」は小学校第3学年で既習
「半」は小学校第2学年、「径」は小学校第4学年で既習

■分析結果と課題

- ・「招待」について、「招」を「紹」「召」としたり、「待」を「持」「対」としたりする誤答が見られました。
- ・「半径」について、「半」は比較的書けていますが、「径」は、「経」「形」などという誤答が見られました。

※字形が似ている漢字と混同したり、誤ったまま漢字を使っていたりしたものと考えられます。

●指導改善のポイント

ポイント1

学年別漢字配当表にある1,006字について、読んだり書いたりする機会を多くして習熟を図りましょう。



■教科書の巻末にある「付録」や「漢字の練習」を活用しましょう。

小学校で学習した漢字は、正確に書けるように練習しよう。特に、第6学年で習った漢字は、書き慣れるまで意識して使っていくように心がけよう。

■学年別漢字配当表に示してある1,006字の漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字です。第3学年が修了するまでに、多様な語句の形で使ったり、様々な文脈の中で使ったりすることができるように指導しましょう。

ポイント2

漢字の語源の成り立ちについて教材研究を深め、漢字の面白さを伝えられるようにしましょう。

- 漢字の語源や成り立ちなどの教材研究を深め、「おもしろい!」という知的好奇心を引き出す授業を行いましょ。
- 分からない語句や漢字が出てきた場合は、そのままにせず辞書を使って調べる機会を意図的に設けましょ。
- 読書活動は漢字を身に付けるためにも効果的です。色々なジャンルの本が読めるようにはたらきかけましょ。



●全国学力・学習状況調査の分析結果と課題

◆複数の資料を比較して読み、目的に応じて要約したり、要旨を捉えたりすることについては、一部に課題

例) B②— 複数の資料を比較して読み、要旨を捉える〔第1学年〕Cイ

設問

接着剤について説明した文章と、接着剤に関するウェブページを取り上げ、書かれた内容を比較して説明している文を選択する。

解答類型	反応率	正答
1と解答しているもの	30.2	
2と解答しているもの	31.3	○
3と解答しているもの	33.5	
4と解答しているもの	4.3	
上記以外の解答	0.2	
無回答	0.5	

■分析結果と課題

- ・【本の一部】と【インターネットの情報の一部】について、共通してどのような内容が中心に述べられているか、的確に捉えられていないものと考えられます。
- ・【本の一部】と【インターネットの情報の一部】について、それぞれがどんな内容について述べているのか、よく吟味することなく読み進めてしまっていると考えられます。

県正答率
31.3%

- 1 接着剤が物をくっつける代表的な仕組みについて、「本の一部」では物をくっつける過程を述べ、「インターネット」では図を用いて具体的に説明している。
- 2 接着剤の用途について、「本の一部」では意外なものに使われていることを述べ、「インターネット」では使用場面ごとに項目を立てて具体的に述べている。
- 3 接着剤が液体から固体になる変化の仕方について、「本の一部」では接着剤の種類ごとに述べ、「インターネット」では代表的な例を取り上げて説明している。
- 4 簡単にはがせる接着剤について、「本の一部」では簡単にはがれる仕組みを図を用いて説明し、「インターネット」ではその接着剤を利用した商品を紹介している。

●指導改善のポイント

ポイント3

複数の資料から、共通点や相違点を考えさせたり、目的に応じて要旨を的確に捉えさせたりする授業を行いましょ。

(1) 美術館の注意書きについて、[資料1]と[資料2]を比べてみよう。



〔資料1〕は文字だけで説明しているけれど、〔資料2〕はマークと文字で説明しているね。

〔資料2〕は、マークだけで伝わらない情報が補足されていることが分かります。



〔資料2〕のAのマークは、「カメラでの撮影は禁止」ということしか分からないね。だから、その横に情報を補足しているんだね。



(2) [資料2]のBのマークに、どのような説明を補足したらよいか考えてみよう。

〔資料1〕美術館の注意書きの一部

作品を鑑賞する際には、次のようなことに注意してください。
著作権法上、作品の写真撮影は禁止です。また、フラッシュの使用は作品に悪い影響を与えます。携帯電話での撮影もご遠慮ください。
食べ物や飲み物が作品に付着するのを防ぐため、飲食は禁止です。ガムや飴を口に含んでの鑑賞もお控えください。変色やカビの原因となります。花束などの植物の持ち込みもご遠慮ください。

〔資料2〕マークを使った注意書きの一部

A 携帯電話での撮影もご遠慮ください。作品には著作権があります。

B

〔資料2〕のBのマークは、「飲食は禁止」ということは分かるけれど、〔資料1〕を読むと、それに関連してもう少し他の注意が書いてあるな。



それぞれから分かる情報を比較して整理することが大切です。では、〔資料2〕のBのマークに補足する説明を書いてみましょう。



■読む目的を明確にし、そのための効果的な読み方（「比べ読み」「速読」「摘読」「多読」等）ができるような指導をしましょう。

■第一学年では、レポートを作成したり、意見文を書いたりする言語活動が設定されています。その際、色々な資料を集め、その中から必要な情報が得られるような指導を行いましょ。また、左記のような学習を参考にしましょ。

中学校 数学

全国学力・学習状況調査の結果から

【A問題】

正答率が5割をきっている設問は、全て1年生で学習する内容です。

「A 数と式」の領域

2] (2) 数量の大小関係を不等式に表す (49.9%)

「B 図形」の領域

4] (3) 図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取る (47.5%)

5] (4) 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している (42.2%)

「C 数量関係」の領域

9] 関数の意味を理解している (37.5%)

10] (4) 反比例について、グラフと表を関連付けて理解している (44.8%)

「D 資料の活用」の領域

13] (1) 度数分布表から相対度数を求める (47.5%)

A9] 関数の意味を理解している

下の表は、ある運動会社の書類の宅配サービスの料金表です。

重量	100gまで	250gまで	500gまで	1kgまで
料金	150円	190円	270円	320円

このとき、1kgまでの書類の料金について、「重量を決めると、それにもなつて料金がただ1つきまる」という関係があります。下線部を、次のように表すとき、①と②に当てはまる言葉を書きなさい。

①は②の関数である。

解答類型	反応率(%)	正答
①料金②重量と解答	37.5	◎
①重量②料金と解答	30.9	

1年生では比例、反比例を、2年生では1次関数を学習します。関数を学習する際には、具体的な事象と関連付けながら関数の定義を繰り返し学習する必要があります。

指導改善のポイント

ポイント1

生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定することに配慮しましょう。

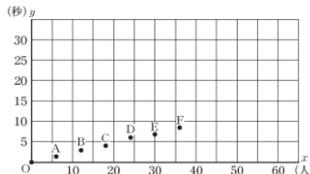
関数領域においては、様々な事象の考察を通して関数の意味を理解できるようにするために、関数的な見方で関係を捉えながら、「…は…の関数である（…に比例するなど）」という形で表現する場面を意図的に設定しましょう。

例) B3] (2) で授業を展開する場合

隣りの人が立ち始めたら、自分も立つ。そのとき、腕を高く上げる。きちんと立ったら座る。



人数と時間のグラフ



問 320人がウェーブをするのにかかる時間を求めましょう。

グラフを根拠として説明するときには、「ウェーブをするのにかかる時間は、ウェーブをする人数に比例するといえる。」と説明した上で、グラフを活用できるようにしましょう。

他の領域でも・・・

例) 1年生 いろいろな正多角形について、1つの外角の大きさを求めてみよう

正多角形の頂点の数	3	4	5	6	7	8	...
正多角形の1つの外角の大きさ	120	90	72	60	$\frac{360}{7}$	45	

- 正多角形の頂点の数にもなつて、1つの外角の大きさが変わる。
- 正多角形の頂点の数が決まれば、それに対応して1つの外角の大きさがただ1つに決まる。
- 正多角形の1つの外角の大きさは、正多角形の頂点の数の関数である。

図形の性質を数量の関係に着目して捉えなおし、その数量関係がどのような関数であるかを判断することで、図形だけではなく、関数の理解が深まります。

▶参照 平成24年度 全国学力・学習状況調査 中学校の結果を踏まえた授業アイデア例より

- 図形の性質を関数の視点から考察する学習の場面として、上記以外にも次の場面が考えられます。
- 扇形の中心角の大きさと弧の長さや面積
 - 多角形の頂点とその内角の和

【B問題】

数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

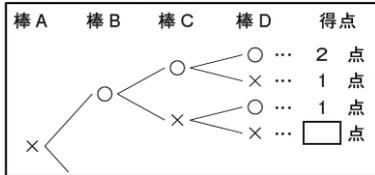
→指導改善のポイント2へ

例 B[5](2) 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる

二人は、この遊びをくり返しているうちに、この得点の決め方では、4本の棒を1回投げるとき、1点より2点の方がとりやすいのではないかと考えました。

1点より2点の方がとりやすいですか。

下のア、イの中から正しいものを1つ選び、それが正しいことの理由を、確率を使って説明しなさい。



- ア 1点より2点の方がとりやすい。
イ 1点より2点の方がとりやすいとはいえない。

(正答例)

1点をとる確率は、 $3/8$ であり、2点をとる確率は $1/2$ なので、1点をとる確率より2点をとる確率が大きい。だから、1点より2点の方がとりやすい。

解答類型	反応率(%)	正答
アを選択し記述	34.1	◎
アを選択し記述が不十分	26.1	
アを選択し記述が無解答	7.2	
イを選択	26.0	
上記以外の解答	0.2	
無解答	6.4	

アを選択してもその理由が不十分な生徒が26.1%、イを選択した生徒が26.0%います。樹形図に整理できないのか、樹形図に整理したものを読み取ることができないのか等、どこにつまずきがあるのかを分析をし、指導に生かすことが大切です。

指導改善のポイント

ポイント2 どこにつまずきがあるのかを普段の授業の様子やテスト等から実態把握し、その状況に応じた適切な手立てや指導を行いましょ。

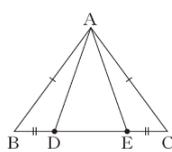
例) A[8]・B[4]で授業を展開する場合

A[8] 証明のための構想や方針の必要性和意味を理解している

ADとAEをそれぞれ1辺とする2つの三角形に着目すると、次のような証明の方針を立てることができます。下の①と②に当てはまる三角形を書きなさい。

① AD=AEを証明するためには、
①=②を示せばよい。

② ①と②の辺や角について、等しいといえるものを探せばよい。まず、仮定から、
AB=AC、BD=CEがいえる。

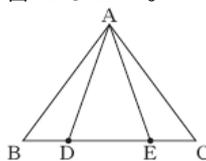


③ ②を使うと、①の①=②が示せそうだ。

B[4] 構想を立てて証明し、証明を振り返って考えることができる

下の図のようにAB=ACの二等辺三角形のBC上にBD=CEとなる、D、Eをそれぞれとります。次の(1)(2)の各問いに答えなさい。

- (1) AD=AEになることを証明しなさい。
(2) $\angle BAC=110^\circ$ 、BD=ADのとき、 $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。



「言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習活動を充実(言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】P.12)」させるために、机間指導における実態把握の視点(□)とつまずきに対する手立て(→)を明確にしましょう。

□結論を示すために何がわかればよいか気付いているか?

→結論となる辺や角を含む三角形に着目させる

□仮定からいえることに気付いているか?

→対応する辺や角にマークをして条件を整理させる

□結論と過程を結び付けるには、あと何がいえればよいか気付いているか?

→既習の図形の性質が使えないか振り返らせる

さらに基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせたうえで活用の時間を位置付けることで、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付いたことを振り返らせましょう。

□証明の過程を振り返り発展的に考えているか?

→証明した図に条件を付加し、発展的に考えさせる(付加した条件を図に書き加えさせる)

ステップ1

図に付加された条件を加える

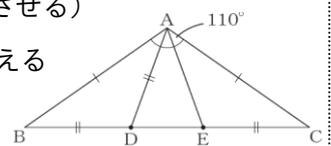
BD=AD

ステップ2

$\triangle ABD$ に着目すると
BD=AD \Rightarrow 二等辺三角形 $\Rightarrow \angle ABD = \angle BAD = 35^\circ$

ステップ3

証明された事柄に
 $\triangle ABD \cong \triangle ACE \Rightarrow \angle BAD = \angle CAE = 35^\circ$
 $\Rightarrow 110^\circ - 70^\circ = 40^\circ$



質問紙調査結果から見られる指導改善のポイント

学校質問紙調査

ポイント1

学力との相関が高い傾向が見られる学校の指導について、自校の指導状況を見直し、指導改善の手がかりを見つけましょう。

岐阜県の状況

「学習規律の徹底」「学習方法の指導」「めあて（課題）の提示」「学習を振り返る活動」「発言」を意識した指導が進められています。
「ねらいを明確にした言語活動」「国語、算数・数学の指導」や「調べたり文章を書いたりする宿題」などの項目については、意識が低いものも見られます。

☆次の指導を行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる項目。また、これらの指導を行っている学校では、学習意欲が高かったり、家庭での学習時間が長かったりするなどの関係が見られる項目。

●学習規律・学習方法

■ は、全国を上回っている項目、(太字は 10pt 以上上回っている項目)

質問項目	小学校		中学校	
	岐阜県	全国	岐阜県	全国
○学習規律の維持を徹底(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)している	70.9	57.4	73.5	61.1
○学習方法に関する指導(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)をしている	59.4	53.2	58.2	45.6

●見通しを示す活動・学習を振り返る活動

○授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れている	83.7	64.4	86.2	49.0
○授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている	61.0	42.3	60.3	28.6

●言語活動の充実

○各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている	34.8	24.6	24.9	20.2
○様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている	43.3	29.7	34.4	21.3
○発言や活動の時間を確保して授業を進めている	59.9	44.0	62.4	29.8
○自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている	27.0	26.2	28.0	19.9
○家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えている(国語/算数共通)	18.2	22.1	12.7	12.8

●国語、算数・数学における指導

国語	○目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行っている	24.9	20.7	32.3	18.9
	○書く習慣を付ける授業を行っている	26.7	29.2	45.0	35.2
	○様々な文章を読む習慣を付ける授業を行っている	17.6	19.4	21.7	23.3
算数・数学	○補足的な学習の指導を行っている	40.6	35.9	28.0	27.7
	○発展的な学習の指導を行っている	12.0	11.1	7.4	10.8
	○実生活における事象との関連を図った授業を行っている	6.7	9.2	7.4	7.8

児童質問紙調査

ポイント2

児童生徒の調査結果から実態を捉えましょう。

岐阜県の状況

小学校では、「授業が分かる」「家で計画を立てて勉強している」という児童は、全国を上回っていますが、「勉強が好き」「家で学校の予習・復習をしている」という児童は、全国を下回っています。

■ は、全国を上回っている項目

●授業が分かる

質問項目	小学校		中学校	
	岐阜県	全国	岐阜県	全国
○国語の授業が分かる	81.6	80.1	69.1	72.0
○算数の授業が分かる	82.8	79.6	73.4	71.5

●家庭学習

○家で、自分で計画を立てて勉強している	70.4	61.0	47.9	46.6
---------------------	------	------	------	------

●勉強が好き

質問項目	小学校		中学校	
	岐阜県	全国	岐阜県	全国
○国語の勉強が好き	54.1	59.2	51.1	58.2
○算数の勉強が好き	65.2	66.1	57.0	56.6

●授業の予習・復習

○家で、学校の授業の予習をしている	40.7	43.2	44.5	34.2
○家で、学校の授業の復習をしている	53.7	54.0	59.6	50.4

ポイント3

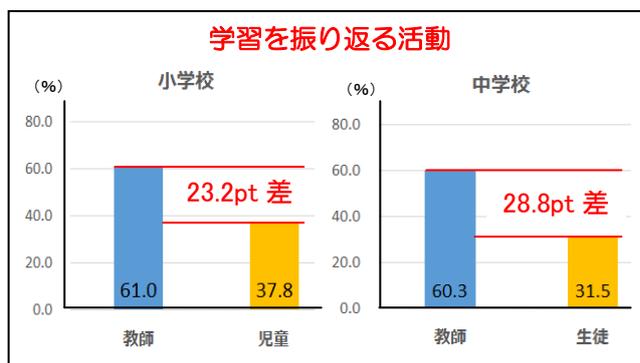
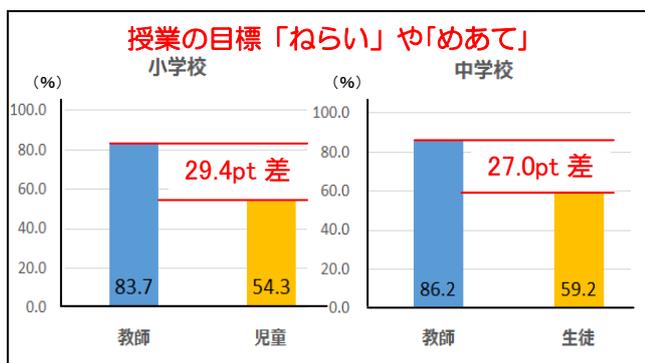
学校質問紙と比較して、実態と教師の意識にずれがないかを見直しましょう。そして、児童生徒の実態に応じた指導を、全職員で取り組みましょう。

岐阜県の状況

小・中学校ともに、「めあて（課題）の提示」「学習を振り返る活動」「言語活動」について、「行っている」という教師の意識と、「当てはまる」と感じている児童生徒の意識には大きな差があります。

●見通しを示す活動・学習を振り返る活動・言語活動

質問項目	学校		児童生徒	
	小学校	中学校	小学校	中学校
○授業のはじめに、授業の目標「ねらい」や「めあて」が示されている	83.7	86.2	54.3	59.2
○授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っている	61.0	60.3	37.8	31.5
○授業で、自分の考えを発表する機会が与えられている	59.9	62.4	56.4	48.1
○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	43.3	34.4	23.0	17.3



指導しきる授業を行うために、全ての先生が、 全ての授業で大切にしたい「3つの見届ける」

指導しきる授業を行うとは、これまでの指導の土台にして、「どの子にも確実に力が付いているかどうかを見届ける」ことを意識した授業に取り組み続けることです。全ての先生が、次の「3つの見届け」を意識し、指導改善に取り組んでいきましょう。

実態を見届ける（見極める）

- 授業前の子どもの実態を見届ける（見極める）ことが重要です
本時、どんな力を身に付けることが必要か、本時身に付けるべき基礎的・基本的な内容は何かを明確にして授業に臨む。
 - 1 全国学力・学習状況調査や県学習状況調査等を自ら解き、指導内容の把握に活かす。また、その誤答分析等、客観的データに基づき、実態を把握する。
 - 2 指導内容や実態を十分に踏まえ、「今日、学習することは○○」、「今日、みんなができるようになることは○○」等、具体的に分かりやすく、子どもに示す。

学習状況を見届ける

- 授業中の子どもの学習状況を見届けることが重要です
一人一人の子どもが学んだ内容や言葉を活用させて話させる、聞き取らせるなど、どの子どもが確実に理解できているかどうかを把握しつつ、指導する。
 - 1 誤答分析の結果を踏まえた「つまずきに応じた指導の手立て」を準備するなど、身に付ける力を、どの子にも確実に付けさせるために必要な手立てを考える。
 - 2 身に付いているか、考えることができているか、一人一人の状況を把握し、その手立てを活用した机間指導により、必要な指導をどの子にも確実に行う。

定着状況を見届ける

- 授業終末の子どもの定着状況を見届けることが最も重要です
「後は宿題で、次の時間に」で終わらせない終末の場と時間を設ける。この1時間で、どの子にも確実に身に付いたかを見届ける終末の指導を継続する。
 - 1 「今日の1時間で、このことを学習した」と、最後に、どの子どもが言える、まとめることができる、振り返ったりできる終末の場と時間を十分に確保する。
 - 2 今日の1時間で学んだことを活用する学習や、繰り返し取り組む学習等を位置付ける終末の場と時間を十分に確保する。